

第13回 鶴田ダムとともに水害に強い 地域づくりを考える意見交換会

- ①_事前放流について
- ②_ダム貯水率の情報発信
- ③_地域防災力向上の取組み



九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

川内川河川事務所・鶴田ダム管理所

①_事前放流について

①_前回までの流れ<事前放流について>

<背景> 令和4年9月出水(台風14号) 鶴田ダムでは

- 大雨に備え、事前放流を実施。貯水位128.6mから梅雨期の予備放流水位115.6mまで13m事前に低下させた。
 - 結果的に、最大流入量は計画4500m³/sに対し、1930m³/sと中規模なものであった。
 - 下流の宮之城地点において、約2mの水位低減効果を発揮した。(R4.9. 19実績水位3.88m)
- ※宮之城地点 氾濫注意水位5.2m、避難判断水位6.4m、氾濫危険水位7.6m

会議での意見

- 事前放流のプロセスを説明して欲しい。
- 事前放流を行う際は、通常のコシ作とは異なる事前放流を行っていることを、情報として伝える必要がある。
- 情報表示板に、「事前放流中」と表示できれば、今後の洪水への事前警告にもなる。

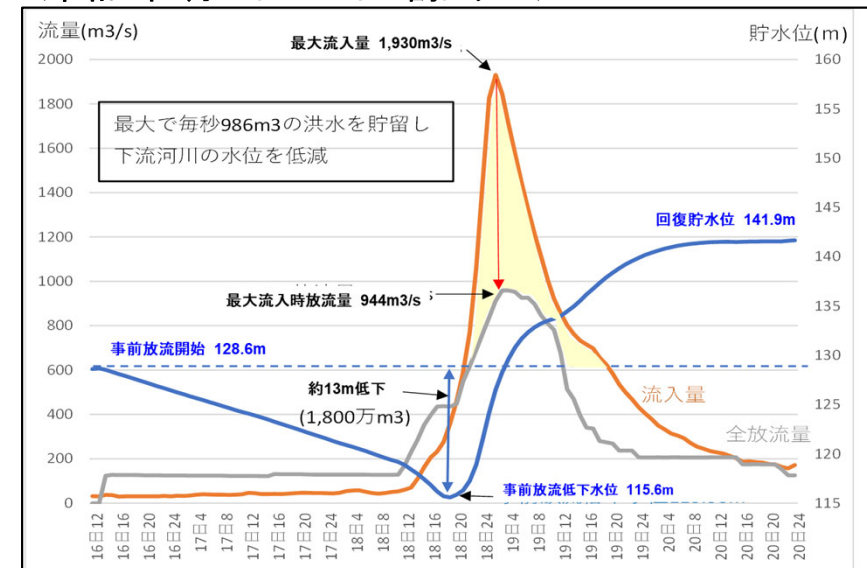
改善内容

<事前放流の情報発信>

改善方法

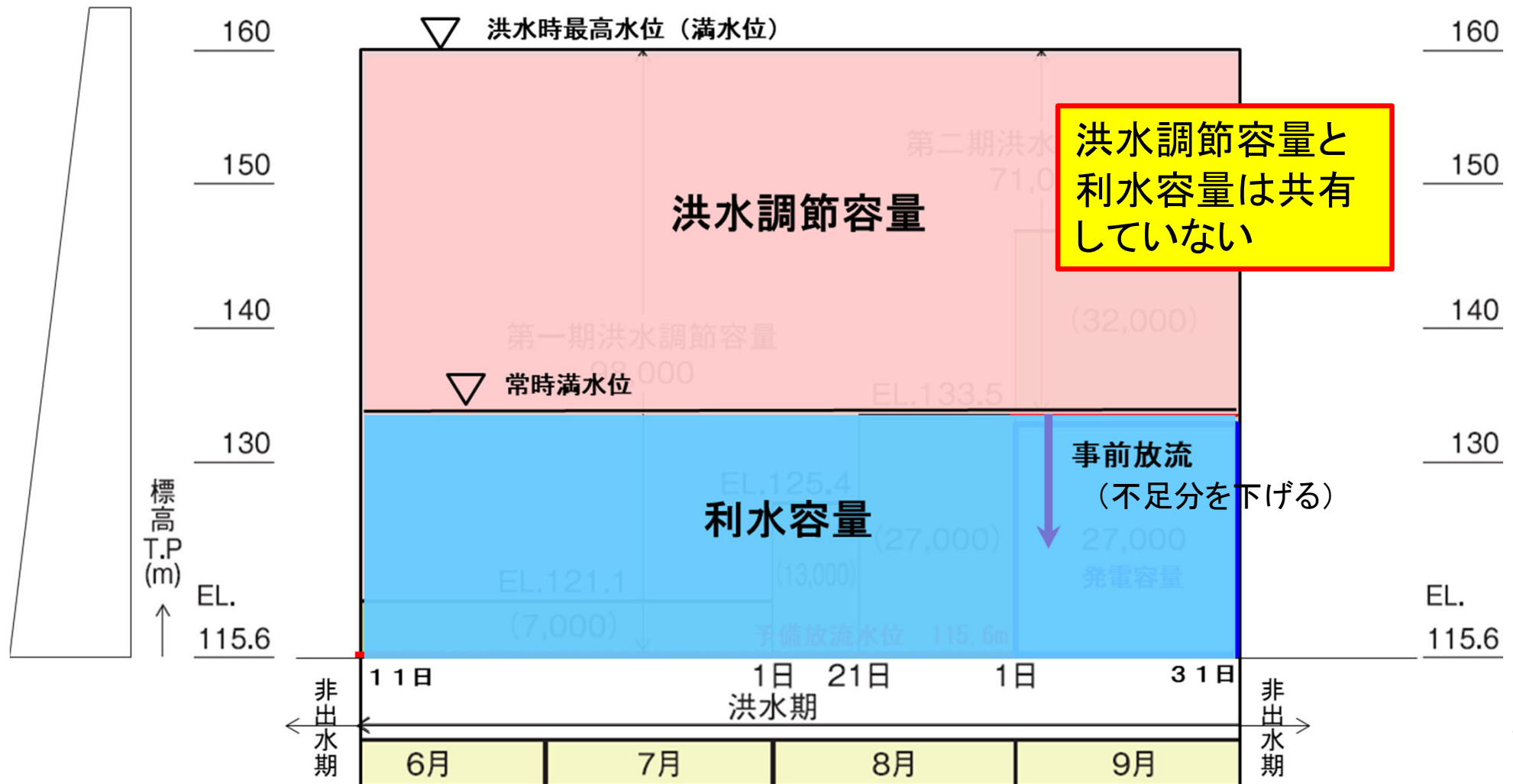
- 情報表示板の改善
- ⇒ R6年度から対応

<令和4年9月16日~20日 鶴田ダム>



- 事前放流の制度は、令和元年度東日本台風などの度重なる全国的な水害を受け、内閣府の指示により各水系毎に河川管理者とダム管理者が治水協定を締結し、令和2年度より全国一斉に実施している。
- 基準となる雨量を上回る大雨が予想される場合、従来洪水調節に活用してこなかった利水容量の一部を事前に放流してダムの水位を下げておき、洪水調節に活用する。(各ダムで基準雨量等を定めた実施要領を作成している。)
- 洪水後に利水容量が回復しない場合、国が損失補填を行う制度になっている。

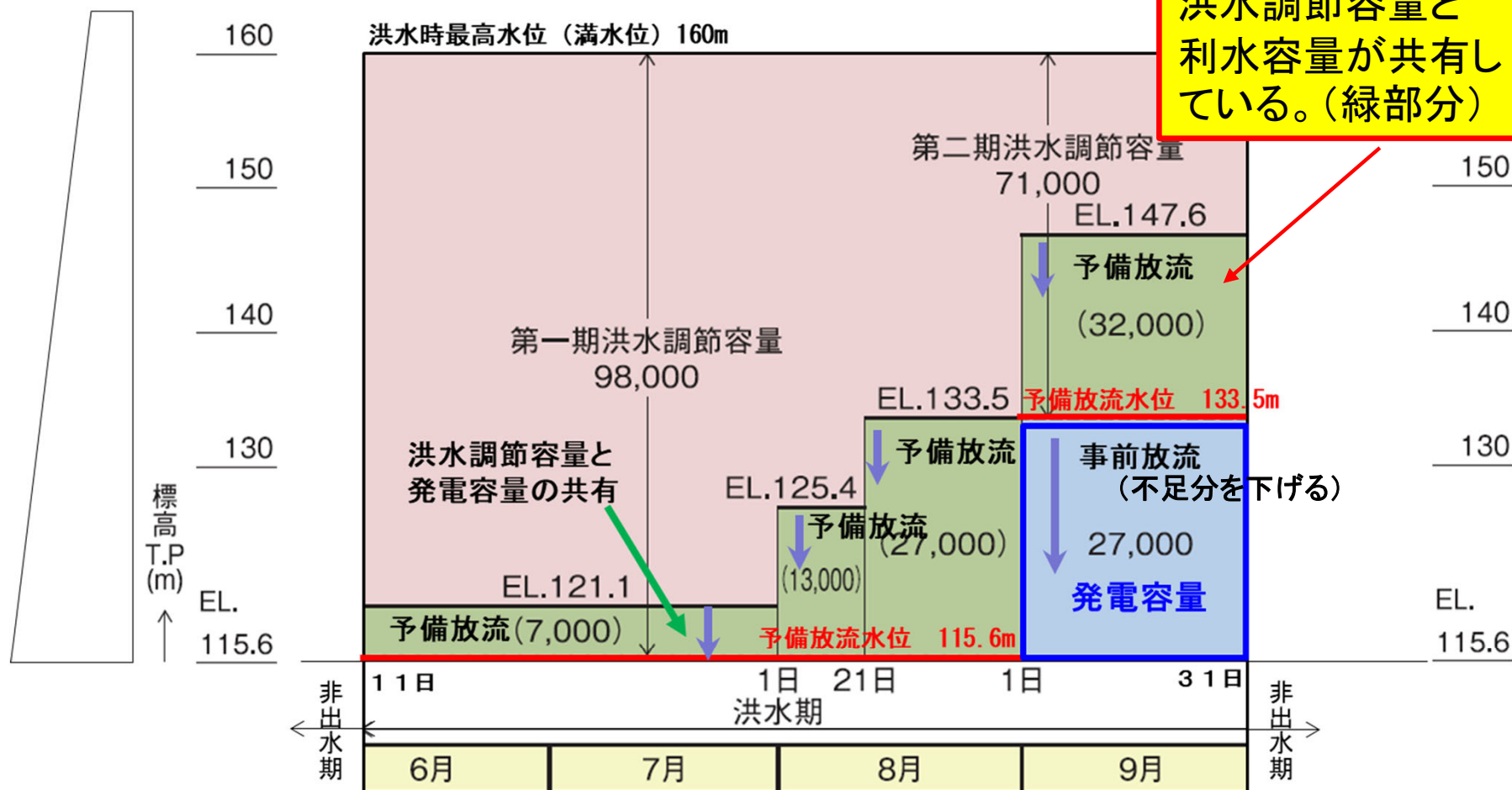
(多目的ダム 常時満水位方式のダム例)



鶴田ダムの子備放流、事前放流ルール

- ダム流入量が600m³/s(洪水と定義)の予測がある時、必ず予備放流(緑部分を下げる)を実施する。
(操作規則に基づき実施する。予備放流で7~8月期は有効貯水容量100%、9月期は約70%の洪水調節容量を確保する。)
- 9月期においては、基準雨量216mm/12hを超えると、約30%の発電容量部分の事前放流の実施判断を行う。
- 流入量予測を行った結果、治水容量が不足する場合、不足する容量分の事前放流を実施する。

(多目的ダム 予備放流方式のダム例)



- 〈凡 例〉
- 洪水調節容量のみ
 - 発電容量のみ
 - 洪水調節容量と発電容量と共有
 - 制限水位
 - 予備放流水位
 - 予備放流容量
 - 容量単位…10³m³

- 事前放流情報として、事前放流による容量確保を行っていることを表示。
- 表示のタイミングは放流開始から不足する容量を確保するまで、又は洪水調節開始まで表示。

＜9月の事前放流限定の表示＞

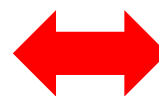
現在の表示

鶴田ダム情報
容量確保中
流入 50m³/s
放流 200m³/s

改良案(表示の追加)

鶴田ダム情報
大雨が予測されるため、事前放流による容量確保中。

交互表示



②_ダム貯水率の情報発信

①_前回までの流れ<貯水率の表示>

<背景>令和3年7月出水 鶴田ダムでは

- 令和3年7月豪雨では、平成18年7月鹿児島県北部豪雨を上回る時間雨量を観測し、この時を上回る最大流入量を記録しました。
- 緊急放流に至りませんでしたでしたが、最高でダム貯水位EL,154.2mまで上昇し、洪水時最高水位EL,160.0mに残り約6mまで迫るものでした。

会議での意見

- 緊急放流開始の切迫度を捉えるためには、貯水率を監視することが有効

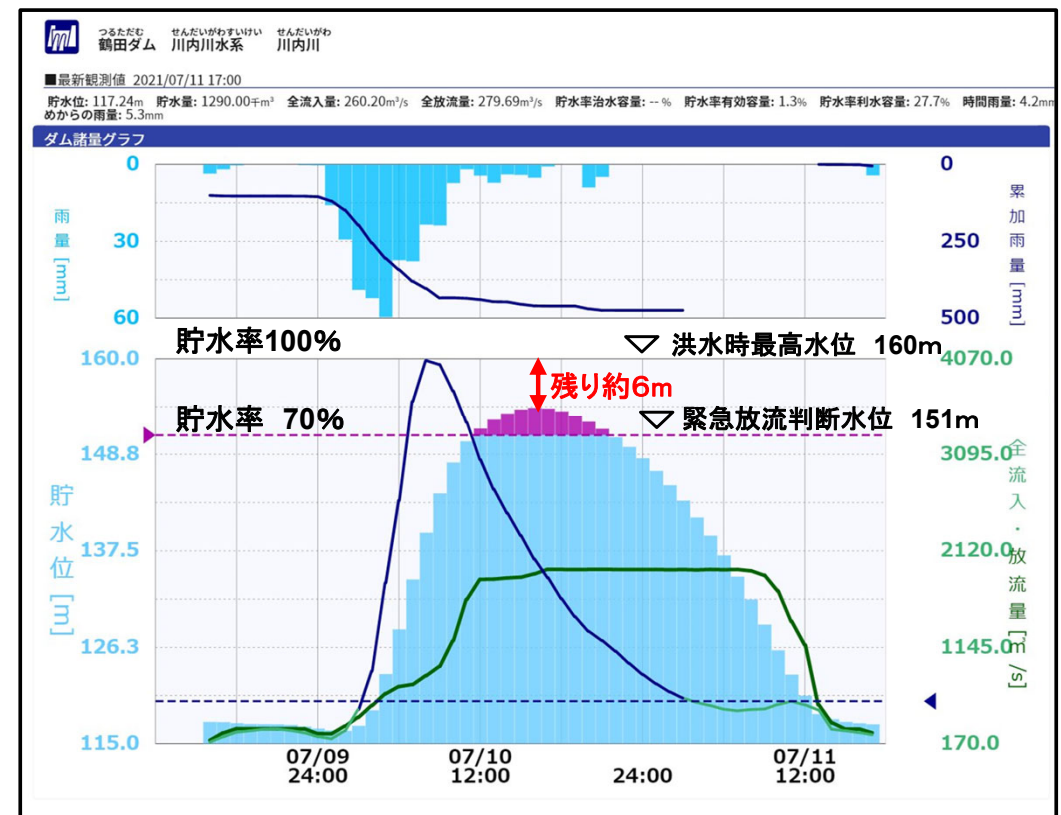
改善内容

<貯水率の情報発信>

改善方法

- ・ 鶴田ダムホームページの改善
- ・ ⇒ R4年度完了
- ・ 情報表示板の改善
- ・ ⇒ R5年度完了(出水期から運用中)

<令和3年7月10日 鶴田ダム 川の防災情報>



<課題>

- ダムどれだけの水が貯まっているか分かりにくい。
- ダムの貯水率は、緊急放流の判断となる大変重要な情報。**
- (※ダム貯水率が70%を超えかつ100%を超える見込みがある場合、70%から緊急放流を開始。)

<これまで>

- 鶴田ダム管理所ホームページでは、ダム貯水位(数値)や流入量、放流量、
ダムの貯水率は表示済み。
- 河川利用者等へ現場で直接お知らせするダム情報表示板に貯水位や貯水率は示していない。

<改善内容>

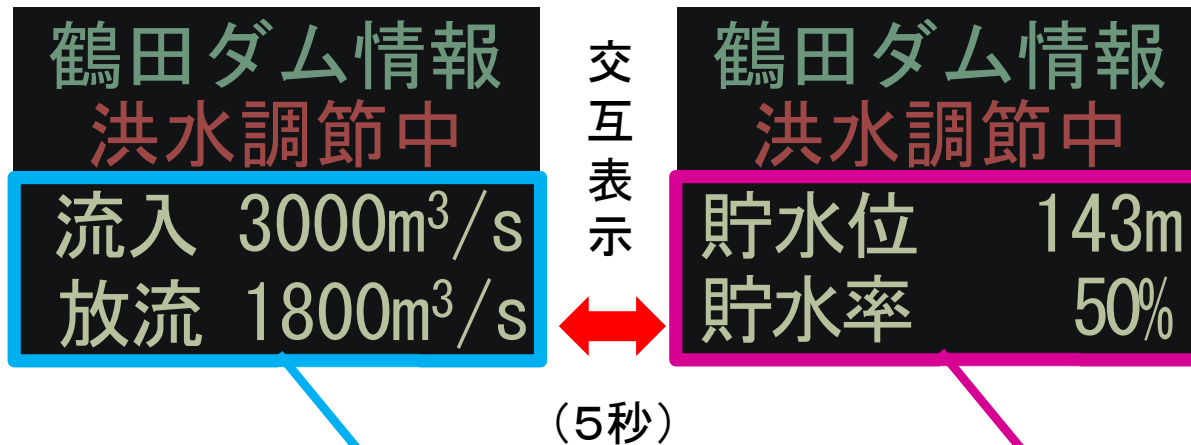
- 情報表示版に貯水位、貯水率をリアルタイム(10分ごと更新)に表示するように改良を実施。(※令和5年5月から運用スタート)

- 鶴田ダムに関する情報として、新たに『ダム貯水位』と『貯水率』を表示できるように改良しました。
- 表示のタイミングは洪水調節開始から終了まで表示します。

現在の表示

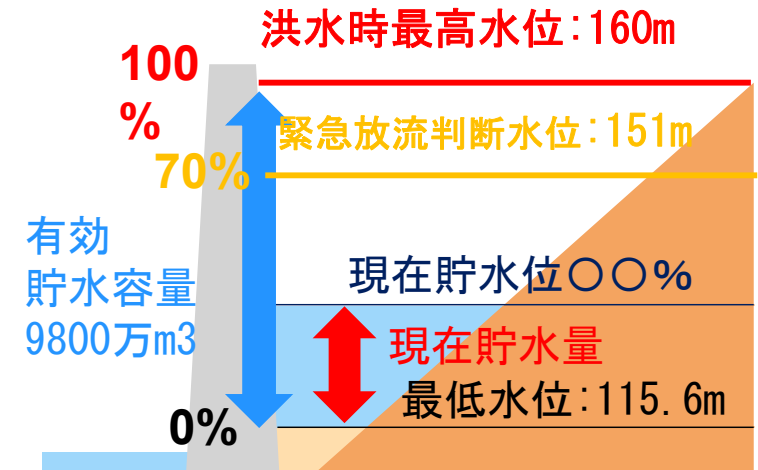
改良案(表示の追加)

空き容量のイメージ



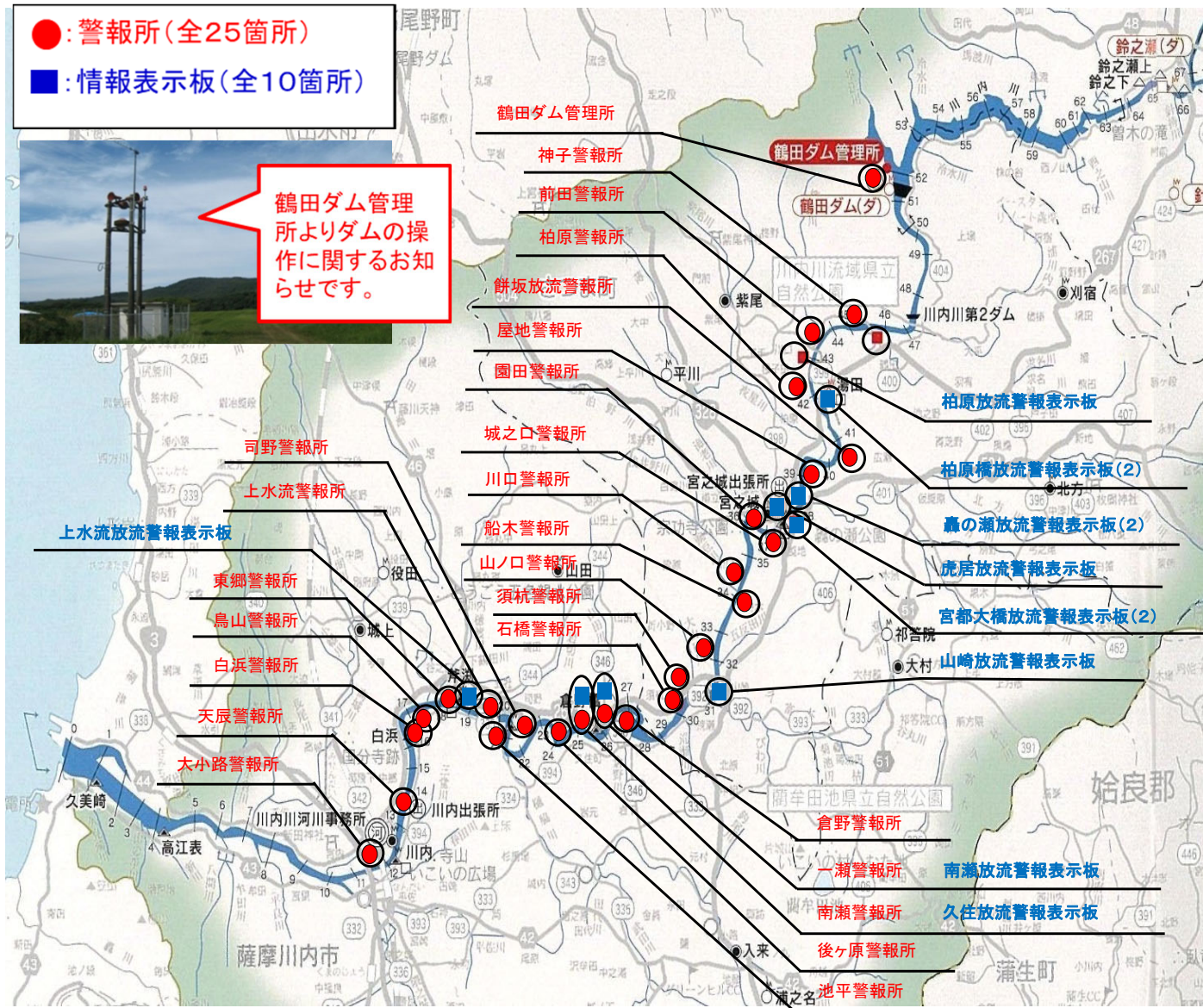
ダム放流中は
流入量・放流量を表示

ダム放流中の表示に
貯水位、貯水率を追加



$$\text{貯水率 (\%)} = \frac{\text{現在貯水量 (m}^3\text{)}}{\text{有効貯水容量 (9800万m}^3\text{)}} \times 100$$

○警報所からのサイレン、情報掲示板により放流情報を周知します。



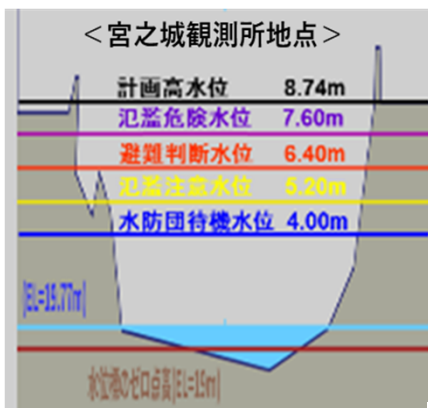
ダムからの放流量の見方

・川内川河川整備計画では、鶴田ダムから最大2400m³/sの放流を見込み、川内地点6000m³/s、宮之城地点4000m³/sの洪水を安全に流す河川整備が進められています。(※宮之城地点はH18激特事業で完成。)

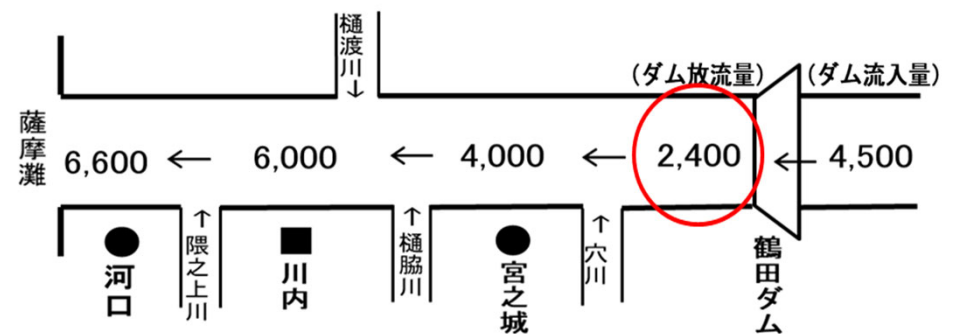
・支川から流れ込む水量や満潮干潮の条件に左右されますが、**ダム放流量が1500m³/s～2000m³/s**で避難判断水位、氾濫危険水位を超えてくる可能性が高く、非常に危険な状態になります。

・貯水率70%から緊急放流を開始した場合、急激な水位増放流上昇をもたらすので、ダムの貯水率も注視が必要です。

(ポイント: 貯水率50%超えで緊急放流要注意、計画2400m³/s以上の流入量であれば超危険)



- 緊急放流 ダム放流量2400m³/s以上
・計画高水位を超えることが想定され氾濫の恐れあり。
- ダム放流量2400m³/s (計画最大放流量)
・氾濫危険水位を超え計画高水位程度に水位が上昇する。
- ダム放流量が1500m³/s～2000m³/s
・避難判断水位、氾濫危険水位を超えることが想定され、河川氾濫の危険な状態になる。
・さつま町の虎居樋門を閉鎖する水位となり、内水被害の発生恐れあり。



※川内川水系河川整備計画 流量配分図

※支川穴川等からの流入量で変化するので注意が必要。

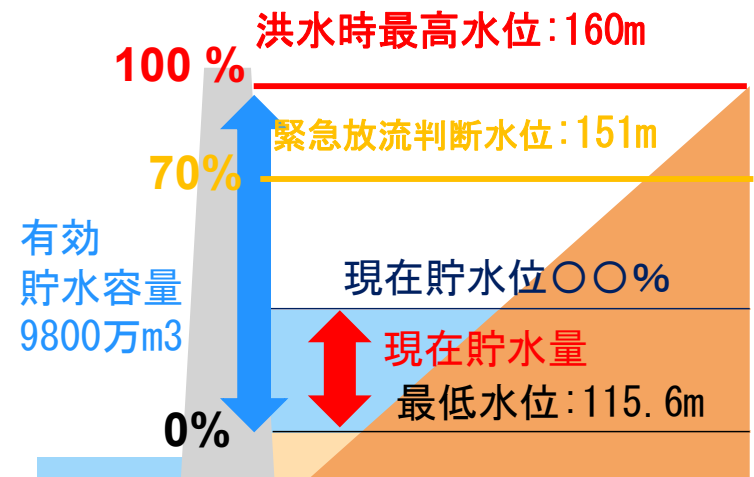
鶴田ダム情報
洪水調節中

流入 4200m³/s
放流 2400m³/s

交互表示

鶴田ダム情報
洪水調節中

貯水位 143m
貯水率 50%



③_地域防災力向上の取組み

- 自主防災組織強化の取組み
- マイ・タイムライン作成

<背景>

- 令和3年7月豪雨では、緊急放流に至りませんでした。ダム貯水位が、洪水時最高水位EL,160.0mに残り約6mまで迫るものでした。
- このことから本会議において緊急放流の議論がなされ、緊急放流に関する情報発信時は避難行動をとることが重要との意見があり、虎居地区で「マイ・タイムライン(防災行動計画)」の作成を進めることとなった。

会議での意見

- R4虎居地区マイ・タイムライン_ワークショップは非常に良い取組み。他地域でも是非実施してほしい
- 虎居地区で実施したことはトップランナー(九州では川内川流域が先駆者)としても非常に意義がある



R5以降の計画

<さつま町におけるマイ・タイムラインの普及促進
さらには薩摩川内市住民へも展開>

背景・趣旨

- 鹿児島県さつま町では、令和4年度から地域防災力向上のための取り組みとして関係機関が連携し、住民自らが作成する防災行動計画『マイ・タイムライン作成』の取り組みを現在、進行中である。
- このマイ・タイムラインは住民個々の防災力向上を目的としたものが主体であり、必ずしも地域防災の組織力を万全に備えたものではない。
- そこで自主防災組織の先進地域である丸亀市川西地区から好事例とその成果に至るまでのプロセスを学び、住民同士の対話を行うことで防災意識を高め自主防災組織の取り組みを推進し、地域防災力向上につなげることが目的

実施体制

ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会

さつま町・薩摩川内市住民(公民館長、公民会長)約30名

さつま町山崎3名・二渡地区4名、虎居地区7名、川原地区2名、柏原5名・湯田地区5名、薩摩川内市斧淵地区

さつま町・薩摩川内市

- ・地域の防災力向上の推進
- ・地域の取り組みサポート

意見
交換

サポート

丸亀市川西地区住民代表

先進的な取組紹介

小松名誉教授

技術的助言

川内川河川事務所 鶴田ダム管理所

各種調整

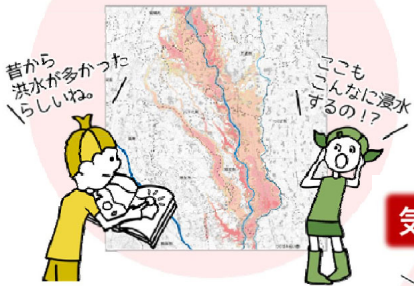
①マイ・タイムラインとは

- ①マイ・タイムライン・・・台風の接近等によって、河川水位が上昇する時に、住民一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて、「どのタイミングで」「どう行動するのか」をあらかじめ時系列で整理した**自分自身の防災行動計画**。
- ②検討のポイント・・・水害リスクや防災情報を「知る」ことから始まり、準備するもの・避難のタイミング等の避難行動に向けた課題に「気づき」、どのように避難行動するのかを「考える」
- ③期待すること・・・住民一人ひとりが洪水ハザードマップを活用し、地域の水害リスクを認識し、避難に必要な情報・判断・行動を把握することにより、避難の実効性を高めることを期待し「**逃げ遅れゼロ**」を目指した取り組み。

●マイ・タイムライン作成にあたって

知る

自分たちが住んでいる場所の洪水リスクを知る



気づく

避難行動における課題に気づく
人と話すことで気づく

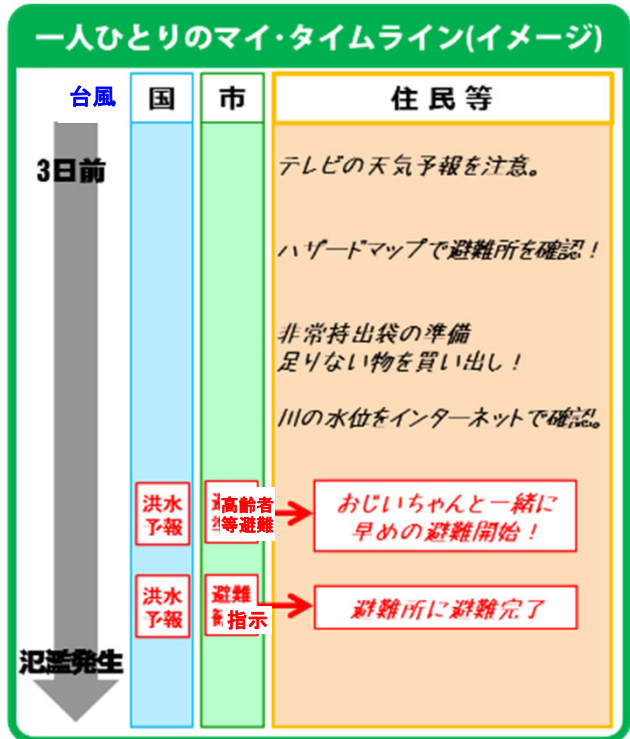


考える

いつ、どうやって逃げるかを考える



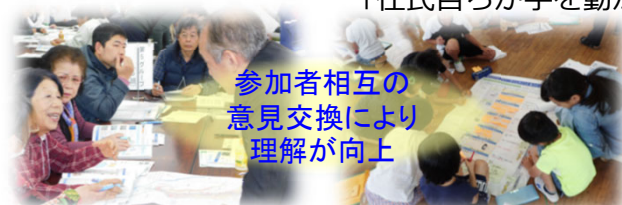
これらの情報を基に
防災行動計画を作成



●地域で助け合うツールとなる「コミュニティ・タイムライン」も併せて検討する

●作成の状況

※避難の実効性を高める
「住民自らが手を動かす取組」が重要



参加者相互の
意見交換により
理解が向上

ワークショップ形式



専門家等による
理解を深める工夫

小中学校の防災教育

お天気キャスターの進行や解説

マイ・タイムラインが完成すると

- ❗ 災害時の防災行動チェックリストで対応の漏れを防止
- ❗ 災害時の判断をサポート

逃げ遅れゼロ



●● 公民会

氏名

川内川が氾濫した場合の浸水深は、最大 0.5~3 m

普段の行動

公民会のみなさんがすること

- 雨の予報を調べる
- 川内川の水位情報を調べる
- 避難の準備をする (避難先へ持ち出し品チェック)
- 高齢者及び要支援者の情報交換
- レベル2以上の際のパトロールの重要性 (急傾斜地・内水面等)
- 届出避難所の役場への報告 (快適な対応)
- 自主防災組織の徹底と村主

あなたや家族がすること

- 雨の予報を調べる
- 川内川の水位情報を調べる
- 家族と避難のタイミングについて話し合う
- 公民会優先の為、自分の車でレベル4の時避難
- 持出品 (車・財布・通帳・保険証・常備薬・スマホ・充電器・水・食糧)

※他に必要なことを記入しましょう

町民居住空間の最終確認 (さつま町へ) 自主防災組織の説明と尊重

(公民会)
自主的に非難が難しい人 (高齢者等) のリスト作成・確認
住民同士の避難方法 (共助) に関するルールづくり
避難訓練を行う

緊急時の行動



【凡例】(気)…鹿児島気象台、(ダ)…鶴田ダム管理所、(河)…川内川河川事務所

【避難について】

- 屋外が浸水していない場合
→ ・指定緊急避難場所へ移動 ・安全な場所へ避難 ・強固で高い建物等に避難
- 屋外が浸水して歩けない場合
→ 建物内の安全な場所へ避難 (家屋内の高いところへ避難)
- やむを得ず屋内に留まった場合
→ 建物の2階以上の高いところへ避難 (山の斜面近くでは反対方向の高い階へ)

マイ・タイムライン活用方法

いつ

各委員・各会合で

どこで

各委員・各会合で

どのように

公民会長が説明する

進め方

<対象地区>

- さつま町川内川沿川の住民
- 鶴田ダム放流が影響する区間(ダム下流本川)
- ⇒宮之城屋地・虎居・湯田・山崎・二渡・神子・柏原

<進め方>

STEP①

関係機関が連携し、リーダー向けの説明会(ワークショップ形式)を開催する

STEP②

各自主防災組織毎に住民自らマイ・タイムライン作成を行う。(指導者:自主防災組織リーダー)

説明者



ひっ翔べ！奥さつま探険隊
田中さん

サポート

さつま町役場
川内川河川事務所
鶴田ダム管理所

STEP①

説明

- マイ・タイムライン概要・H18洪水
- 防災情報(気象・河川・ダム・避難)
- マイ・タイムライン作成

※ダム情報は管理所職員で説明対応

公民館長・会長(自主防災組織リーダー)約30名

- 宮之城屋地・虎居・湯田・山崎・二渡・神子・柏原

説明

※この時は地域住民のみで対応
ただし、ダム情報は管理所職員で説明対応

地域住民(自主防災組織単位)で
マイ・タイムライン作成

STEP②

説明者のためのシナリオ台本



アンケート結果＜勉強会を受けて＞

<現状と課題>

Q1_現在、自主防災組織の活動内容として、いつ・どのようなことを取組んでいるかその内容を記入下さい。

No.	公民会名	キーワード	内容
1	ダムとも委	体制作り	・現在の自主防災組織の活動としては水害を想定したものしか考えていないが、各自治会に自主防災組織を組織していただき有事の際には地区のコミュニティ協議会を各自治会長を中心とした組織との連絡により避難という行動をしている。
2	五社下	体制作り	梅雨前に防災組織表を各班ごとに作成。
3	轟原	体制作り	・総会資料に防災組織図を付けている。
4	二渡区公民館	体制作り	・防災組織編成。
5	ダムとも委	防災訓練	年1回の防災訓練。
6	湯田上	防災訓練	毎年5月末の町内一斉防災訓練に合わせ、令和2年救急救命(消防署から)研修。令和3～4年は情報伝達訓練。令和5年は炊き出し訓練を実施。
7	上川口	防災訓練	行政の避難訓練日と合わせ、定期的避難訓練を実施している。
8	小路下手	防災訓練	年1回の町の防災の日に消火器の取り扱いおよび実演、救命訓練を実施。
9	轟原	防災訓練	・毎年町の防災訓練の日に避難訓練を行っている(各家庭から班ごとの集合場所まで避難し、そこで持って出た物の点検等を確認する。
10	虎居馬場	防災訓練	・町の防災訓練の日に合わせて、公民会独自で訓練を行っている。 ・水害による避難については国道が先に水が上がってくるので、堤防に沿って避難する。 ・地震の時には水害と同じだが、隣近所に声かけをして避難する。
11	西手	防災訓練	夏、防火栓の取り扱いについて消防団員に来ていただき実勢を行いました。
12	山崎区公民館	防災訓練	役場・危機管理系の指示に従い、消防との合同での危険場所等を点検して見回りをしています。
13	二渡区公民館	防災訓練	・年1回避難訓練をしている。 ・消防団と危険箇所の点検をしている。
14	二渡	防災訓練	5月ぐらいに町の防災訓練のサイレンに合わせて自主的に避難訓練を行っています(公民館を避難場所として)。高齢化に伴い3～4年前はほとんど歩いてこられた方がシルバーカーを補助として参加の方が3割ぐらいになっています。
15	須杭	防災訓練	5月町内一斉防災訓練(高齢者宅訪問ほか)のみ。

アンケート結果＜勉強会を受けて＞

<現状と課題>

Q1 現在、自主防災組織の活動内容として、いつ・どのようなことを取組んでいるかその内容を記入下さい。

No.	公民会名	キーワード	内容
16	舟倉	防災訓練	自治会で避難者リストの作成、地域コミを中心とした避難訓練の実施。
17	斧淵	防災訓練	・令和6年度に自主防災訓練を実施予定している。
18	湯田中	避難所関連	避難所の開設、運営、連絡など。
19	五社上	避難所関連	自治会避難所開設。
20	西町	避難所関連	避難所開設時に避難の呼びかけ、必要に応じて送迎。
21	古城滑石	計画等の作成	集落の住宅地図(家族構成も含む)を作成し、水害、風害などの避難所への道のりなど作成中です。
22	湯田下	その他	現状的にはまだ何もしていない。
23	大願寺	その他	特別に取り組んでいません。
24	山崎中	その他	・ゴミ収集日、当用の当番へ現況を確認、防災無線放送で情報伝達。 ・自宅にて避難経路の危険箇所、避難場所の確認をしてもらっている。
25	荒瀬	その他	・18年の水害の被災者は安全な場所へ移転して現在は水害に合うような住宅等はありません。 ・台風、大雨についてはテレビ等の情報をしっかり見て、事前にできることは地区で取り組んでいます。
26	東町	その他	・高齢者および要支援者(20名)の気象情報危険度における避難体制の手厚い対応。
27	東町	その他	・公民館内急傾斜地の予算獲得と対応。
28	東町	その他	・原発事故(薩摩川内市)の確定要件の現実対応の確認。
29	司野	その他	・H18/7/23水害後、堤防の補強が進みほぼ安心だが内水上昇し、道路(R267)が1日通れない。 平成元年にバイパス開通(R267)したが東郷(町)街で越水する恐れ大きい。

アンケート結果＜勉強会を受けて＞

Q2 現在、地域がかかえる防災上の課題や改善点について、その内容を記入下さい。

No.	公民会名	キーワード	内容
1	ダムとも委	避難	・高齢者の避難方法。
2	湯田上	避難	災害弱者(障害者、高齢者等)の避難誘導の在り方。
3	上川口	避難	一人暮らしや高齢者世帯の地域内での把握、およびその方を誰が避難させるかを決めるのが難しい。理由は高齢になっても働いている方が多い(家にいない)。避難させる側も高齢化し体力がない。上川口高齢率50%以上。
4	小路下手	避難	避難時の身体不自由者の対応の見直し。 川内川の洪水、堤防はできたが。
5	西町	避難	高齢者、高齢世帯、高齢独居世帯の増加が見込まれる中、災害発生や発生が見込まれる時の避難誘導が円滑に行えるか。
6	舟倉	避難	避難時、要支援者が円滑に避難することができるか。
7	須杭	避難	高齢化による支援者の人材不足。
8	虎居馬場	支援・助成	大雨の時、内水の雨が公民会内を流れている小川が溢れるので樋門を設置してあるが、国交省のポンプ車で駆けつけるようになっているが間に合わない時があるので設置型にして欲しい。
9	西手	支援・助成	さつま路の近くの溝の水が排水ポンプの排水作業が遅すぎる為、水が逆流してさつま路が水害にあう時がありますので早めの排水ポンプ作業をお願いしたい。
10	山崎区公民館	支援・助成	点検して異常が見られたらすぐさま対策を立てるように会合します。
11	轟原	防災訓練	防災組織にのっとった訓練が不十分。
12	荒瀬	防災訓練	自区(コミュニティ)等での災害に対する訓練等ができていません。何かいい機会にできればと思っています。
13	山崎中	共助	・公民会内に外国人が多数居住(約60~70人)。コミュニケーションが取れない。
14	司野	共助	・高齢化率高く、自治会人数減少(年々死亡による)。
15	湯田中	共助	高齢者の助成。

アンケート結果＜勉強会を受けて＞

Q2 現在、地域がかかえる防災上の課題や改善点について、その内容を記入下さい。

No.	公民会名	キーワード	内容
16	二渡	公助	虎居地区が水害になった年、私は二渡の消防団員でした。 その時我々山崎地区には『川がどの程度まで水が上がります』との情報は全然なくて、陸の孤島の気分になりました。 水の水量情報はどこにいても早く知らせてもらいたい。
17	古城滑石	公助	川内川の水害、堤防の嵩上げ。
18	山崎中	備蓄材	・避難所を開設しても資材、備品がない。
19	荒瀬	防災意識	我が地区は当面水害ですがなかなか地区内で災害をウケることを他人事のようにほとんどの方が見ている。
20	五社上	防災意識	防災意識の高揚
21	五社上	体制作り	防災組織
22	ダムとも委	その他	自治会未加入者への有事の際の対応。
23	ダムとも委	その他	・被災者と被災者でない人との災害についての温度差。
24	ダムとも委	その他	・個人情報の問題。
25	湯田下	その他	ため池が2か所ありますが、川内川の堤防が改修されよほどの大雨がない限りは大丈夫と考えている。 しかしこれからは線状降水帯等の大雨のあり得るので地区公民館においては話し合いをしなければならないと考えている。
26	大願寺	その他	一集落では大災害の時、課題や改善点も難しい。
27	東町	その他	公安意見会への要望なしに信号機の設置の課題が誠に難しい。
28	五社下	その他	なし
29	二渡区公民館	その他	消火栓から放水するが一部しか放水は届かない。
30	司野	その他	・外部からの入居者、自治会に入ってくれない。
31	司野	その他	・土日でも仕事の世帯が多い。

アンケート結果＜勉強会を受けて＞

<当面できること>

Q3 丸亀市川西地区のお話を聞いてみて、自分たちの地域で当面、取組み可能なこと・取組んでみたいことについてその内容を記入下さい。

No.	公民会名	キーワード	内容
1	ダムとも委	防災訓練	サロン等を利用しての防災教育、訓練。
2	湯田中	防災訓練	・自主・自立の防災。 ・小学校生徒と一緒に防災活動。
3	小路下手	防災訓練	避難訓練の実施。
4	古城滑石	防災訓練	炊き出し訓練。
5	五社下	防災訓練	水害による避難訓練。
6	西町	助成・支援	・宝くじ助成金、共同募金会の活用。
7	西町	避難	・企業の活用。
8	西町	公助	・社会福祉法協議会の活用。
9	湯田上	公助	湯田区全体で備蓄(とりえず食料)。
10	湯田下	共助	集会所において公民会の人達の年代別、体の不自由な方々を考えて全員で避難先への行動をする話し合い。
11	大願寺	共助	町単位でのような話でした。近所等へ声かけぐらい。1年単位の公民会長では何もできません。
12	轟原	備蓄資材	備品がほとんどない。少しずつでも準備したら。
13	二渡	備蓄資材	避難場所への常時備えておくべき備品を準備したいと思います。
14	須杭	備蓄資材	食糧等の備蓄。
15	虎居馬場	体制づくり	・今日は講演を聞いて紙上だけの自主防災ではなく、しっかりした防災活動ができる体制づくりをしたい。 ・自主、自立、防災を大きくかかげる。

アンケート結果＜勉強会を受けて＞

<当面できること>

Q3_丸亀市川西地区のお話を聞いてみて、自分たちの地域で当面、取組み可能なこと・取組んでみたいことについてその内容を記入下さい。

No.	公民会名	キーワード	内容
16	荒瀬	体制づくり	避難所に備蓄等まったくない状態。避難してもすべて自分持ちの状態。これをどうしてゆくか？
17	西手	情報発信	行政からの発信を待つのではなく地域(部落)からの発信を心がけたい。
18	西町	連携	・避難所となる学校といかに連携するか。
19	舟倉	連携	各関係機関との連携。
20	山崎区公民館	その他	なし
21	上川口	その他	なし
22	ダムとも委	その他	今の時代どんな災害があるかわからない。その時のための対策が大事であると感じた。
23	東町	その他	・公民会の一番弱い所から手を付ける。 ・子ども達は日本を扱う宝である。
24	二渡区公民館	その他	組織編成は人数の確保、消防団との連携が重要と思います。
25	山崎中	その他	無線ネットワークについて以前はアマチュア無線運用者が多数おり、役場職員も数名いた。有効活用できないだろうか？
26	五社上	その他	・危険箇所当の確認(小学生との自治会区域内見回り)。
27	五社上	その他	・各世帯ごとの避難先確認(リストの作成)。
28	五社上	その他	・自助、共助、公助の取り組み(自主、自立)。
29	司野	その他	30年会長継続、市民と信頼関係良好。反対する住民への対策は？独裁で批判に対処？ 司野自治会は単年で交替、人材不足で不可能。 22時からの避難訓練スタートすごいですね。

今後の活動予定<さつま町・薩摩川内市の自主防災組織>

No.	タイトル	目的	実施内容	実施時期	参加予定者数	自治会名	備考
1	町一斉防災訓練	浸水想定区域の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民会放送により浸水想定区域及び土砂災害警戒区域の周知 ・ 指定避難所の確認 ・ 公民会作成の災害時安否確認連絡先と連絡訓練 ・ 消防団川原分団合同の土砂災害地域の点検及び災害時連絡方法の再確認 	出水期前 5月下旬 (町内一斉防災訓練の日)	20名	【川原地区】 川原町公民会 (自主防災組織)	舟倉委員
2	町一斉防災訓練	避難訓練 避難訓練行動要支援者の 避難行動支援訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練 ・ 自治会内の見守り担当による担当の再確認(みまもり支援員・福祉部長・健康づくり推進員などの話し合い) 	出水期前 5月下旬 (町内一斉防災訓練の日)	100名	【柏原・湯田地区】 上川口公民会 (自主防災組織)	
3	町一斉防災訓練	災害時炊き出し訓練	～自らの地域(コミュニティー)は、自分たちで守る～を合言葉に地域住民への食事提供訓練を実施	出水期前 5月下旬 (町内一斉防災訓練の日)	30名	【柏原・湯田地区】 湯田上公民会 (自主防災組織)	川口委員
4	町一斉防災訓練	情報収集・伝達訓練	避難行動要支援者など支援の確認及び連絡網の作成など	出水期前 6月下旬 (町内一斉防災訓練の日)	40名	【柏原・湯田地区】 湯之元・ 西湯田原公民会 (自主防災組織)	
5	町一斉防災訓練	安全な避難のための確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集 ・ 災害に応じた避難場所・経路など話し合いにより避難に備える ・ 近所への声かけや共同による避難 ・ 各自の避難状況の連絡 	出水期前 5月下旬 (町内一斉防災訓練の日)	未定	【山崎・二渡地区】 山崎中公民会 (自主防災組織)	前田委員
6	町一斉防災訓練	情報収集・伝達訓練	避難行動要支援者など支援の確認及び連絡網の作成など	出水期前 6月下旬 (町内一斉防災訓練の日)	50名	【山崎・二渡地区】 二渡・二渡町公民会 (訓練は自治会単位)	

今後の活動予定<さつま町・薩摩川内市の自主防災組織>

No.	タイトル	目的	実施内容	実施時期	参加予定者数	自治会名	備考
7	町一斉防災訓練	避難行動要支援者の避難行動支援訓練	西町ささえあい隊（地域の支援者）の会を開催し、避難行動要支援者の状況の共有及び支援協力者の確認や支援方法を確認	出水期前 5月下旬 （町内一斉防災訓練の日）	未定	【虎居地区】 西町公民会 （自主防災組織）	
8	町一斉防災訓練	自主防災組織の活動確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象レベルに応じた避難行動支援 ・ 避難状況チェックシートを活用した安否確認 ・ 気象警戒レベル（想定）によりパトロールを開始（マイタイムラインの活用） 	自治会による 日程設定	20名	【虎居地区】 東町公民会 （自主防災組織）	母ヶ野委員
9	町一斉防災訓練	地域住民の避難訓練	地域住民による班ごとの避難訓練（集合場所・避難経路の確認）	出水期前 5月下旬 （町内一斉防災訓練の日）	180名	【虎居地区】 轟原町公民会 （自主防災組織）	
10	斧淵地区防災訓練	いつどこで災害が発生してもおかしくない状況の中、共助という考えから地区コミュニティの自主防災組織が災害が、いざという時に自分たちのまちを守る活動が出来よう、防災関係機関と連携して、さまざまな訓練を行い防災減災に努める。	防災行政無線による避難指示放送 避難訓練、炊き出し訓練 消火訓練、救急訓練等	5月26日 （日）	約600名 （平成28年実績574名）	斧淵地区コミュニティ協議会 （13自治会含む）	宮路委員